

神奈川県立鎌倉支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和6年度 神奈川県立鎌倉支援学校第3回運営協議会		
開催日時	令和7年2月20日（木） 午前9時30分～午前11時00分		
開催場所	会議室		
出席者	委員：6名 事務局：6名		
次回開催予定日			
問合せ先	神奈川県立鎌倉支援学校 副校長 望月 好子 電話番号 0467-45-1482 ファックス番号 0467-43-4808		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
協議(会議)経過	<p>1 学校長挨拶</p> <p>2 学校運営協議会会長より 学校評価で、学校の取組みを聞いたあと、ここにいらっしゃる委員の方から提言や質問について何う形で進めていきたいと思います。この学校評価の目標は4年間で達成するもので、今年度の取組みについて考えていきたいと思います。</p> <p>3 令和6年度学校評価（年間評価）について （1）教育課程・学習評価 ①「生きる力」「主体性」を育てる授業実践を実践する。 ②意思決定支援（形成・表出）支援を理解し、授業実践に取り組む。また、ICT機器の利活用を推進する。</p> <p>【質疑応答】 Aさん：先生方の評価が高い。頑張っているなと思う。主体性や意思決定支援に取り組んでいることがわかる。機器の使い込みには時間がかかるので、初回で68%は悪くないと感じた。 Bさん：①で教員の肯定的意見が多い。全体で周知されて、教員が全体で取り組んでいるのがわかる。 Cさん：教員の中に浸透していることがわかる。利活用についてはまだ積み上げていく段階で、68%は高い。積極的に関わっていると思う。先生と生徒が一緒に高まっていくことが期待される。 Dさん：ICT機器利活用については、先生方が考えてやってくれている。ICT機器は進化していくため、利活用が広がっていくとよい。 会 長：生きる力や主体性は、将来の生活にどうかかわっていくのか見えにくいところがあるが、取組みからは生きる力を引き出すことが見えている。今どれだけできているのか、これからどう向かうのかがわかるとよい。どんどん進化していくものを生かせる授業が増えてくるといいと思う。</p>		

(2) 生徒指導・支援

①自己理解や自己肯定感を高める指導・支援を充実させる。

【質疑応答】

Aさん：生きる力や主体性を育てるには、コミュニケーションが大切。多彩な体験、いろいろな選択肢があることが大切。

Bさん：専門職と一緒に振り返って実践に活かしている。いろいろな経験を通して、自分の強みを知ることが自己肯定感を高めることにつながる。この実践を進めていってほしい。

Cさん：「自己肯定感を高める教員の言葉かけ」とあるが、どんなものか。

副校長：肯定的、分かりやすい言葉かけであるか、教員側の関わり方について考えている。効果的な支援で、言葉かけや支援が適切であるか、関わり方の段階があるので、その段階を考えながら行っているか。専門性を高めるのが課題。指導の手立て、個々に応じた適切な支援ができていますか。

Cさん：専門職との連携、発達の段階で適切な関わり方を広げていってほしいと思った。

Dさん：達成感が持てると次につながっていくので、是非進めていってほしい。「読み聞かせ」とはどんなものか。

副校長：テーマにそった絵本の読み聞かせを行っている。生徒会の委員会活動のひとつで、生徒会が呼びかけをして昼休みに実施している。昨年度より多くの児童生徒が参加していた。

会 長：実態シートをもとに指導支援している。授業参観等で配られる指導案がある。今どんなことをして、どんなことが課題かを共有できているのでそれを続けてもらいたい。

会 長：保護者の評価はどうか。

副校長：アンケートの集計の仕方をオンラインで行ったところ回答率が低かったが、回答については積極的に関心を持った方々のご意見と受け止めている。評価は13項目中8項目が肯定的意見で高評価であった。低い評価の部分は、取組みについての発信不足が要因かと思われる。

会 長：教員と評価は一致している。回答してくる保護者の方は肯定的意見の方。

(3) 進路指導・支援

①小・中・高の一貫した進路指導・支援に繋げるために、教員対象進路学習会を充実させる。

②進路・支援等に関する制度や進め方等について、児童・生徒や保護者が理解を深められるよう、関係職員が連携して取組む。

【質疑応答】

Aさん：進路については相手がいるのでこちらだけでは評価できない。相手によって個別性があるので、きめ細やかな対応が必要。制度が変わる等あるので、正確な情報を把握することが必要。学校全体としての変化が毎年あると思う。前もって行政と、各市町の基幹相談事業所等と情報共有することは必要。学校からの

情報発信をしていってほしい。

Bさん：いろいろな取り組みを発信していることがわかる。いろいろなところで話を聞きながら子どもたちの事業を開けていってほしい。

Cさん：進路は、制度がいろいろ変わっていくので、その情報を知っていく。知っていただいたうえで、これから充実した生活を過ごしていくために、どんなことをしていくのかを学校と進路先とで共有していくことが大事。事業所側がコロナ禍でつながりが薄くなったが、保護者には、親の会で情報をたくさん持っている方や、活発に活動されている方がいる。情報共有していけるとよい。

Dさん：高2の息子。実習をしているが、何をやりたいのかわからない。本人は、いろいろやりたいことを言ってくる。大学にいったって勉強したいと言っているが、現実問題は難しい。就労Bで検討しているが、その事業所にしても、誰かが辞めないと入ることができない状況がある。

会 長：社会参加の在り方はその子に応じて違うと思うが、早い段階で、将来の生活を考えていく必要がある。子供のニーズが多様化している。学校、行政、保護者と共に創っていくことができるとよい。

（４）地域等との協働

①地域の人材や企業等を活用し、地域と協働し、授業の充実を図る。

②地域の学校との交流及び共同学習を通して、児童・生徒の主体的な活動や関わりを推進する。

③地域のニーズを踏まえた学校情報を発信する。

【質疑応答】

Aさん：地域の方が入っている状況は、いい状況だと思う。生活にスマホが欠かせなくなっている。スマホの使い方については重点的に行っていく必要がある。社会生活で危険に陥らないように。国連から指摘がある特別支援学校のあり方で、交流の在り方がある。別世界に行くのではなく、一般の子どもたちに一緒にいて当たり前という社会の実現ができるようになるとうい。学校の取り組みはよい。頭が下がる。

Cさん：地域との協働は、学校だけではできない。とても良い取り組み。継続していくことが課題。定着して、ごく当たり前、日常にあることが大事。特別にやりましょうではなく。共生社会として、日常的に定期的に行って継続していくことが大切。是非継続していってほしい。地域の関谷、城廻で、定期的に学校だよりが回覧されている。学校のことがわかる。

Dさん：地域との協働は大切だと思う。近くの栄光学園とのつながりがないので、つながっていけるとよい。

会 長：地域との協働はエネルギーが必要。どういう風にして継続していけるか、構造的にしていけるかが課題。意味がある、実感できるものにしていく。多彩な交流や出会いがあって、「意味がある」「つながっているね」と実感できてくると思う。かつて分教室で、金井高校と共同授業をしていたが、どうなったか。

副校長：コロナ禍であつたり状況が変わつたりして、現在は実施していない。

会 長：オンライン等、時間を共有できる方法や工夫を持ち込むことも必要かと思う。

(5) 学校管理 学校運営

- ①未然防止に繋がる情報共有を各学部・分掌で年間を通して計画的に取り組む。
- ②学校の防災について、再確認・再点検を行う。
- ③分掌・学部業務の整理をする。

【質疑応答】

Aさん：未然防止はいろいろなものがある。虐待や医療ミス、それを防ぐには、みんなの意識を高めるだけではだめで、よい環境に働けること、いろいろ話せる環境であることが重要。「みんなで気をつけましょう」ではなく、「どうすればしないように改善できるか、どうやって対応するか」をみんなで共有する。誰がやっても間違わずにすむ仕組みを、環境を作る。防災について、学校だけでなく、地域を交えて高めていくことが課題。その視点でも、考えていくとよい。学校は、仕事量が多い。先生自身が健康でいないといけない、健康管理をする、モチベーションの維持管理をしていくことが大事。大変な職場、モチベーションのキープを。

Cさん：事故、ヒヤリハットについては件数が上がってこないことがむしろ危険。始末書的な意味合いだとなかなかうまくいかない。業務だけが增える。傾向と対策を共有することが大事。ヒヤリハットの情報共有の大切さを意識化できるとよい。63%となっているのは、やはり大変なのだな。事業所は、行政から業務改善に委員を設置して取り組むよう指導されている。新しいことをしていくこともある。こういうことがよくなってきたということを共有できるとよい。SBの欠席連絡システム導入でどんなことが改善されたか。

副校長：保護者も利便性を感じ、学校側も電話連絡の件数が減り、効率化が図れた。

Cさん：うちの事業所も導入を検討している。

Dさん：ヒヤリハットは、一つ間違うと大きな事故になるので、気をつけていってほしい。様々なシチュエーションで考えていく。先生方を見て大変だなと思う。PTA活動でも。

会 長：大変な職業といわれて、なり手や人手不足となると問題。業務が子どものことに直結していることを実感できると違ってくるかと思うが。医療的ケア児が33名と、多い学校である。ヒヤリハットを丁寧にとりあげて、傾向と対策ができているのでよい。ヒヤリハットについて「〇〇キャンペーン」とうたって、気軽に楽しく言葉かけするのもよいと思う。

4 学校運営協議会各部報告

(1) 学校防災（福祉避難所）部会

指導G長：今年度の取組報告。継続していくことで人のつながりが広がっていく。

(2) 切れ目ない支援部会

支援G長：今年度の取組報告（進路と相談業務）。共生社会に向けての課題。

5 有識者による評価（第三者の視点）

- ・学校評価の各視点について、4年間の中期目的を達成するための単年度目標が明確に示されている。それぞれの目標に対する取り組みの内容とその評価については、自己評価と他者評価には近似した傾向が観察でき、学校と保護者が概ね良好な評価をしていることから今年度の取り組みを連続的かつ発展的に実施していくとよい。課題としては、学習指導・支援や生徒指導・支援について、児童生徒自身の変容や成果を評価する客観的な視点を設け、定点観察並びに評価できるとよい。また、児童生徒への直接的な指導支援に関する学校及び保護者評価と進路や地域連携といった第三者に関係する取り組みの同評価とに較差が存在することを踏まえ、運営協議会の提言などを参考にして課題改善に向けた具体的な取り組みを積み上げていくとよい。
- ・【進路指導・支援の視点】 本人保護者の考え方や進路先が多様化する環境下で、小中高どの段階でも計画的に進路指導の取組みができたことは高く評価できる。一方、教員向け進路指導学習会肯定的意見の 61%の不全感は深掘りする必要性があること、保護者のニーズを把握する方法は常に昇華させる必要がある。いずれにせよ、このテーマに関する取り組みは年度の早い時期から実施し、得た情報を元にその後の行動に反映できる時間を作ることも肝要である。